



目次

◆ブロックからのお知らせ..... 1	◆事務局からのお知らせなど..... 7
■第45回日本野鳥の会関東ブロック協議会（オンライン）報告..... 1	■応援してください！クラウドファンディング初挑戦（8/29～9/30）..... 7
	■会員数..... 7

◆ブロックからのお知らせ

■第45回日本野鳥の会関東ブロック協議会（オンライン）報告

- 【日時】 2022年3月19日（土）
14:00～18:00（Zoom利用のオンライン開催）
- 【担当支部】 日本野鳥の会茨城県
【司会進行】 茨城県・内田（事務局）
【議事録作成】 茨城県・角谷
【参加者】 計26名（敬称略）
- 茨城県 : 矢吹、内田、飯田、林、角谷
 - 栃木県支部 : 内田、手塚、小林
 - 群馬 : 浅川、飯塚
 - 吾妻 : 中澤
 - 埼玉 : 佐野、浅見、森本、小林
 - 千葉県 : 橋本、大野
 - 東京 : 石亀、落合、増田、新橋
 - 奥多摩支部 : 蒲谷
 - 神奈川支部 : 鈴木、小林
 - 財団 : 葉山(常務理事)、箱田(普及室室長代理)

【議事】

冒頭、内田（茨城県・司会）より、オンライン会議の注意事項などが述べられた。

＜開催挨拶＞

矢吹（茨城県会長）

支部独自のおためし会員が会員維持に役立っていること、今年から探鳥会時に会費徴収することなど近況報告やコロナ感染の下で探鳥会は無いが、意見を出し合い、建設的で、良いところを共有できる有意義な場となって欲しい旨、挨拶が述べられた。

【来賓挨拶】

●葉山（財団・常務理事）

eバードジャパンの運用開始の報告のほか、地球温暖化対策推進法が改正され、各都道府県で脱炭素の実行計画を地域で作成することになっていること。これにより、風力発電を促進するなど、促進区域で認定事業とな

ると環境アセスの解除手続きが省略されたり、農地法の制約もなくなったりする。実行計画を設定するための協議会が開催されるので、皆さんも参画されて意見していただきたいと思うことなどが述べられた。

●箱田（財団・普及室室長代理）

オンラインの活用法やカメラマンのマナーがより問題となってきているのでガイドラインの発行を計画していること、探鳥会保険で調査活動もカバーできることになったので、有効利用、質問や問い合わせをして欲しいことなどが述べられた。

【各支部報告】

●吾妻（中澤）

組織構成は10名、会員数は43名。それ以外に探鳥会などで80名位いる。

役員会は月1回で実施。支部報はきくいただき年1回、会報は年6回発行。探鳥会を2021年度は21回実施。コロナ非常事態宣言中は中止した。

ガンカモ調査を年1回実施。外部連携は、コロナ下での2年間、なし。コロナが収まれば、観光協会などから探鳥会依頼を受けることがある。

●東京（石亀）

組織は大きく変わっていない。コロナ下で一部出勤、一部リモートで対応中。会報は、PDF版も配信予定。探鳥会は88回計画で51回実施。東京の感染動向指標で実施の可否を判断。申込制探鳥会は41回計画で21回実施。活動は、コロナの影響による中止が多かった。

総会は実施していない。ミヤコドリ自主調査、猛禽類の繁殖調査を実施。自治体からの依頼や ECOM 駿河台で写真展を開催。

Zoomでの会員向けイベントを行うようになった。ホームページがコロナ下で注目され、読み物や動画を充実させている。コロナ下で赤字が顕在化し、対策検討中。会報を6回に変えた。

探鳥会は常連の方がほとんど。初心者がエントリーしづらくなっている。初心者はカメラ持参の方が多いので、撮影マナーなどアドバイスが必要。

●千葉県（橋本）

役員が49名。

幹事会を月1回実施。今まで船橋で実施していた。オンラインの技術が足らず、メール報告を集約して幹事に展開している。(Eメール幹事会)

オンライン幹事会をZoomで実施したが、通常15名に対し、参加者は10名以下と下火。

今年はオンライン会議を継続実施しているが、4月から船橋で対面実施予定。

事務所は週に1回開けて電話・会報発送手続きをしている。会報ほおじろは、毎月発行している。

コロナで問題だったのは、講演会ができなかったこと。会場が借りられない。オンライン実施についてはスキル問題があって困難。

2021 総会は書面開催で対応。2022 総会も書面で対応予定。調査はオオセッカコジュリンの調査を実施

従来は一般会員含めて実施だが、今は幹事で対応。ガンカモ調査も実施。

探鳥会は98回計画で32回実施。参加者は508名で例年の3分の1。

毎月およそ3万円の収入があるが、ほとんど収入がなくなっている。

受託事業は関係団体 NPO 野鳥千葉が千葉県から受託し、本会は協力している。

オンライン幹事会はスキル問題でなかなか難しい。

●栃木県支部（手塚）

幹事 12 名、688 名会員

役員会はメーリングリストで調整、オンライン会議は1回のみ。事務局会議もメール対応。

会報は年6回発行

探鳥会はコロナ前160回に対して、2020は0回（13か月間未実施）。2021年度は60回程度実施。

総会は昨年5月にオンライン実施。

渡良瀬遊水地でワシタカ生息調査を21年継続実施。県からカワウ調査、鳥インフル関係でフンの採取調査あり。企業、自治体依頼はなし、学校からの依頼は事務局通さず直接リーダーに依頼がある。

●神奈川支部（鈴木）

会員数 1700 名。

鳥類目録の編集委員会、他委員会あり。

役員会は月1回、オンラインと対面の両方で実施。できるだけ顔を合わせるように考えて実施している。

事務所は、月水金の各4時間開いて対応中。

支部報はばたき、年12回発行。非常にお金がかかる。ネット印刷に変えたところ、20万から4万円に費用削減。これまでお世話になった印刷屋さんから変えるのは心苦しかったが、オールカラー化もできた。ネット印刷にするにあたって、PDF入稿なので手間がかかる。毎月発行が日的に厳しいので、年6回への移行を検討中。

探鳥会は104回計画で34回実施。感覚として3割程度の実施。計画は引き続き立てていきたい。

総会はいままで実施していない。

会員フォーラムを開催し、意見を伺っていたが、コロナ下で実施していない。

緊急事態宣言、まん延防止等重点措置中は探鳥会中止とし会員に連絡。

ガンカモ調査は、会員がセンサスを87か所実施。会員数減で対応が厳しい状況となっている。

県、企業からの依頼は無かった。

5年毎に鳥類目録発行している。2020年末に発行したが、在庫を抱えるリスクを鑑みアマゾン電子書籍で対応。但しマンパワー不足が顕著。

神奈川支部研究年報も発行している。

今まで紙版を発行していたが、今回より電子版のみ発行。ホームページで無料公開している。

●群馬（浅川）

会員数 430 名

役員会は月1回で今年は対面実施。できるだけ短時間で実施している。

事務所は平日10-16時開所。

会報は年6回発行。

探鳥会は100回計画して61回実施できた。

総会は毎年5月実施、昨年は対面開催。

調査は、秋のタカの渡り、夜の鳥類、ガンカモ調査を実施のほか、今年度より夜の鳥類の調査を始めた。4年間実施予定。調査回数は多くできないので、2地点/年間2回。対象は、フクロウやアオバズクなど。年間31地区を調査する計算。夜なので複数調査員で対応しているが、調査員確保が困難となっている。群馬県から委託調査が3件あった。内容は、生息密度調査、ガンカモ調査、カワウのねぐらコロニー調査。また、自治体からも5件調査依頼があった。

●埼玉（小林）

会員数 1471 名。

役員会は月1回メールベース。各支部はオンラインで実施している。

事務局は週2.3回不定期で打ち合わせを実施。

会報しらこばとを年6回発行。

探鳥会は69回計画で26回実施。コロナ中止が多かった。

コロナ以降、総会は実施していない。

シギ・チドリ調査を1か所、年2回で実施。IT委員会にてホームページからの情報でシギ・チドリ調査を実施。夏鳥、冬鳥調査を2020年から2年間実施している。10年に1回実施で、前回は2010年に実施。ホームページで公開予定。

オンラインフォーラムは2021年に探鳥会に代わるものとして開催した。探鳥地紹介、講演、バーチャル探鳥会などいろいろ実施している。2021年2月までで42回開催した。海外、県外、会員以外も参加している。フォーラム後の会員入会引き合いがある。

●奥多摩支部（蒲谷）

会員数 578 名。

役員会は月1回、LINEを用いたオンラインで実施。まん延防止中は対面で実施した。スタッフ会議もLINEで対応している。オンライン開催にしたことで遠距離の方も参加するようになった。

移動時間が楽になるので、オンライン歓迎の声もある。

会報は年6回発行、ネット印刷で経費節約、オールカラーにしている。入稿は納品日までの期間が長いと安く、短いと高くなる。そのため、発行直前まで編集を行うと費用が高くなってしまふ。

探鳥会は82回計画で30回実施。コロナ中止が多かった。半年間、何もできなかった。まん延防止中も探鳥会を実施しても良いのでは、という意見もあった。

総会は紙面対応で実施。意見ある人はメールで連絡し、2か月後に承認した。

自主調査：3件、企業3件、自治体3件実施。コロナ渦で件数が減っている。

●茨城県（林）

会員数 688 名、かつては 1000 名超だったが減少している。

役員会は月1回、水戸で実施している。コロナの状況によってオンライン会議も適宜実施している。オンラインは、PC 操作が苦手な方がいる反面、資料共有できたりとメリットとデメリットがある。

会報は月1回発行。役員会時に発送作業対応を行っている。PDF での配信を 3 年前から実施しており、すこしずつ増加している。

組織は、事務局、編集(会報)、環境計画部(調査活動)、普及部(探鳥会)。

探鳥会 128 回計画、実施 75 回で、ほとんどがコロナを理由とする中止となった。

総会は毎年 5 月実施だが、コロナの影響から 10 月にずらして実施。今年も 5 月に計画している。

自主調査：ムナグロ調査を実施(春の渡り)

濁沼がラムサール登録湿地ということもあり、県から探鳥会の依頼がある。受託調査数は多い。

<質疑応答>

●群馬 夜の鳥類調査について

調査を始めようとしたきっかけは？(茨城県 内田)

→早朝調査は今まで県からの受託調査で実施していたが、夜の鳥の調査記録がなく関心があった。5 月～7 月の 3 か月間で調査を行い、フクロウ、ヨタカ、アオバスクの分布が分かるのではと考えている。今後、4 年かけて県内全域を調査予定。(群馬 浅川)

●神奈川の鳥類目録について

5 年毎は頻度が高いと思いますが、いかがでしょうか？また、目録が開発事例などに役立ったことはあるか？(茨城県 内田)

→いままで 5 年毎だったが、2015 年までのデータを 2020 年発行しており遅れ気味。今後は 10 年ごとになりそうな感じである。

5 年毎に行ってきたのは、会員から多くの観察記録を集めることも目的の一部にある。

開発事例に実際に役立った事例はないが、市町村単位で自然保全の参考になっている。

データは基本公開なので、個人でデータを研究目的に参考にされている方もいる。また、会員以外でも購入頂いた方は自由に使える。オオタカ繁殖など希少種のデータは公開していないので、別途相談となる。(神奈川支部 鈴木)

●埼玉オンライン野鳥フォーラムについて

探鳥会に代わるものとして始められたの(茨城県 内田)

→第 1 回は 2020 年で、ちょうどコロナで探鳥会中止のときに開催。ヤング探鳥会を担当者が枠を拡大して誰でも参加できるようにして行った。オンライン探鳥会はハードルが高いので、なんとかオンラインで対応できるイベントを、との思いで始まった。当初はがんばって毎週 1 回実施していた。今は月 2 回ペースで実施。(埼玉 小林)

このイベントは講師にかかっている部分が多く、埼玉で講師を引き受けて頂ける人が幸いにも多くいた。(埼玉 佐野)

【議題1 関東ブロック協議会の今後の運営方法・メーリングリストの柔軟な活用】

●栃木県支部 手塚さんから概要説明

関東ブロックのリーダーを対象とした研修にしたらどうか、が提案のきっかけ。

従来のリーダー研修の課題は会場の予約、旅費・宿泊費など。オンライン開催であればコロナ配慮不用、費用もかからないなどのメリットがある。

重要案件だけでなく、軽い案件も扱う。場合によってはコミュニケーションを図る目的での開催も良い。

支部が発案して不定期開催でも良いのでは、と考える。輪番での年 1 回定例会は、いままで通り幹事支部で実施する。

参加対象は、担当やリーダー、議題やテーマに関心がある人。

課題は、輪番幹事主催の議題がなくなるのでは。→輪番幹事の定例会は各支部の近況報告と懇親会のみでも良い。

財団普及室中心のワーキンググループと重複する可能性があるが、関東ブロックのみで実施することにより、活性化することも良いと考えられる。

●吾妻（中澤）

吾妻からのオンライン参加は中澤のみなので、Zoom などは厳しい。

輪番による関東ブロック幹事になるのであれば、対面開催や、リーダー研修の場として計画したい。

●千葉県（橋本）

千葉もオンライン参加が難しい。

関東ブロックより、千葉支部の内部問題に目が向いていて、千葉から議論テーマを出すまでには至らないのが今の率直な感想。

●神奈川支部（鈴木）

対面は計画しても中止となるリスクがあるので、オンラインの方が良いと考える。

メーリングリストは文章なので議論は難しいと感じる。そのため、情報交換のみが良いと感じる。

いろいろな議論に対して話合うのはよいアイデアだと思います。

神奈川支部で困難な課題も、他支部の意見や例を教えていただき解決できると良い。

いままでは関東ブロック開催が目的になっていると感じていた。

オンラインによって、ハードルが下がったと感じている。

●奥多摩支部（蒲谷）

対面は準備や費用面で大変なので、当面オンラインによる開催に賛成。

今は支部長クラスがでているが、もっと担当・若いスタッフが交流できる場がよいと感じる。

例えば、金曜日の夜に飲みながらなどや悩みごと相談など。オンラインには若い人のほうが慣れていると思う。

メーリングリストで議論するのは難しいと思う。議論するのであればオンラインで言葉をかわす方がよい。

●茨城県（林）

対面実施は中止もあるので、ぎりぎりまでなやんだ。

かなり前から会場を抑えて、直前中止を考えると、オンラインは最適と考える。

対面開催はホスト判断でよいと考える。

●東京 石亀

対面開催は金銭的問題もあり、同じ人ばかり参加となる。

次の世代を育成する場、若手が参加する場として利用するほうが良い。その中から次のリーダーがでてくれば良いかと思う。

●神奈川支部 小林

他の支部とつながりができる。

若い人が何かやりたいことがあっても、横のつながりがないので意見交換ができない状況。そのため、悩みを相談できる人が必要。

関東ブロックに参加する人がいつも同じ人よりも、若い人が参加したほうがよいと思う。

懇親会の場を設定してもよいのでは、と考える。

●群馬（浅川）

役員会で意見を集約できなかった。

今年中には、オンライン会議に参加できるような環境を整備していきたいと考えている。

●栃木県支部（手塚）

来年の関東ブロックの担当は栃木の番だが、おそらくオンライン形式による開催。

その次は吾妻だが、オンライン開催が困難な場合は、次の輪番の埼玉主催でもよいと思う。

当面は幹事支部が決めるのが良いと思うが、いろいろな相談の場として設定することを考えていきたい。

メーリングリストで議論するのは難しいという意見に賛成。

●財団普及室（箱田）

オンラインにする、もしくは対面開催にするかはコロナ状況によるので、その時に対応すれば良いかと思う。

それよりも、オンラインの特性を利用して開催方法を従来よりも気軽にすることが良いと思う。

●栃木県支部 手塚

オンラインを利用して、開催時期不定期的に、議題があるときに開催する方が良いと考えている。

活動報告は今の関東ブロック形式で良い。こちらはオンライン開催でも、対面開催でも、どちらでも良い。

●奥多摩支部（蒲谷）

他のブロック協議会はどのような感じでしょうか？

→幹事支部によって違っている。（普及室 箱田）

●栃木県支部 手塚

年に1回実施はこのまま継続し、別のメンバーで意見交換できる意見交換の場を幹事支部が提案、開催することは良いでしょうか？

→多数決により可決となった。

【議題2 コロナ下での探鳥会開催や工夫】

●茨城県（林）

まん延防止等重点措置期間は探鳥会中止としている。ホームページに告知している。ただし、全員見ているとは限らないので、担当リーダーは必ず現地待機している。

●吾妻（中澤）

少人数なので、他と少し違うかもしれません。探鳥会と写真展のみにして、スリム化している。参加費も集めていない。

緊急事態宣言中は中止、担当者待機するも参加者がいな

いこともあった。

新聞への告知はせず、会員のみで探鳥会を実施している。

感染症対策で気を付けたことは、体調管理・トイレは各自消毒を徹底した。

●東京（落合）

申込制探鳥会は、緊急事態宣言中でも開催することにした。

月例探鳥会は、東京都指示を基に開催可否を決定している。

運用は都度議論せず、方針に従い実施としている。

マスクを付けながら探鳥会は熱中症リスクがあるので夏の探鳥会は中止とした。

探鳥会参加費を200→500円(申し込み制)に引き上げたことが変化点。

●千葉県（橋本）

中止判断は当時探鳥会別に判断していたが、担当者が判断に迷うことがあった。

最近、緊急事態宣言中とまん延防止等重点措置中は一律中止と決めている。担当は待機するも、参加者はほとんど来ない。

探鳥会で昼食とるものもあるが、黙食徹底。

参加者は住所・連絡先記入が必須としている。他も細かいルールを決めて実施している。

技術的にも難しく予約制はとっていない。

お試し会員は増えていない。

●栃木県支部 手塚

県レベルで中止を決定している。

まん延防止等重点措置以上で中止。

開催基準、開催方法はマニュアル化してリーダーに配布している。

2021/4月申し込み制で再開したが、12月に人数増えてきたので、当日制に移行。

●神奈川支部 鈴木

まん延防止等重点措置以上は中止。

支部報で連絡したりしたが、今年中止要件を明記した。

雨天中止と同じようにコロナ中止を理解しているとの認識

全て申込制にしていたが、参加者が減ったので、今は当日制に戻ってきている。

●群馬（浅川）

その都度探鳥会中止をメーリングリストで判断していた。

中止判断を基準化して、群馬県警戒度レベル2以上で中止と決めた。

申込制は実施していない代わりに、感染予防対策を徹底している。

物の貸し借りや大声での会話は禁止とし、感染症の心配がある方は、参加を遠慮してもらっている。

●埼玉（小林）

ホームページでの事前申し込みを徹底している。

中止の場合は、参加者と必ず連絡できるようにしている。

ホームページを使い慣れていない人からは、使いづらいつとの意見も寄せられている。

10人程度に分けたグループで探鳥会するなどの工夫している。

●奥多摩支部 蒲谷

まん延防止・緊急事態宣言で探鳥会中止。ホームページで告知している。

参加者名簿は氏名・連絡先を記載してもらっている。連絡先を記入いただけない場合は参加できないこととしている。

申込制はとっていない。

会員間でのコミュニケーションがとれない、会員勧誘ができないのが困っている点。

まん延防止中でも開催する、との意見もある。他支部の意見を聞きたい。

登山探鳥会はマスク着用では苦しくて登れないので中止している。

「コロナ怖い」から「コロナ慣れ」に変わってきていると感じる。

当面はコロナとお付き合いしていく必要がある。

【議題3 会員減の取り組みについて】

●茨城県（林）

各支部共通の課題だと思います。

コロナの影響もありますが、取り組みについて共有させて下さい。

コロナの影響で会員減少が続いている。

県外からの参加者も多い潤沼をアピールしていきたいと考えている。

初心者向け探鳥会を増やして、新規会員を増やしたいと考えている。

茨城も会員との差別化を図るため非会員の参加費の徴収を始めた。非会員の方のみ対象。

まだ成果は見えてないので、今後注視していく。

●栃木県支部 手塚

初心者探鳥会年間 20 回が一番会員獲得できている。

入会金 1000 円を支部でサービスしている。

今は入会者が増えている状況。

●神奈川支部（鈴木）

ビギナー探鳥会が開催できていない。新入会が少ない状況。

お試し会員で、支部報半年送付の他に PDF 版の 1 年送付無料を開始した。効果は確認中。

●群馬（浅川）

減少し続けており、増やすことができていない。

非会員の参加費を多くする試みを実施中。

今まで非会員 25%だったが、今は 35%を占めているため。

非会員から会員になるメリットとして参加費で差別化している。11 月から開始したが、1 月中止となったので、まだ成果が分かっていない。様子見中です。

●奥多摩支部（蒲谷）

大幅な会員減となっていない。

探鳥会が実施できていないのが原因かと思います。

いまのところ他問題でいっぱいに対応できていないのが状況。

●東京（石亀）

ビギナー探鳥会を 6 回実施。財団の宣伝効果が高い。

6 回実施で、おためし会員が増加している。合計 146 人がおためし会員になった。

会員はプラスマイナスゼロをキープ中。

●吾妻（中澤）

ビギナー探鳥会を実施していない。

北軽井沢探鳥会を実施すると県外の方の参加が多く、入会者が増える。

写真展を年 2 回実施しており、入会者が数人いる。

●千葉県（橋本）

探鳥会を実施していないと、おためし入会がない。

探鳥会で双眼鏡などの相談にも乗ってあげられない。

会員に対するメリットですが、昔は会員になって探鳥会に行かないと鳥がわからなかった。今はインターネットなどで調べることができるので会員にならなくても良くメリットが減少している。

現在、ホームページ改良を検討中。

探鳥会の参加費で、非会員と会員で差をつけることについて、役員賛同を得られなかった。金額による差分のメリットよりも、探鳥会の面白さが一番重要と考えている。

今まで幹事研修会で会員減の対策を議論していたが、今はそれもできない。

●埼玉 小林

やめる人の理由が分かっていない。偶然、理由が分かった方がいて、会報が隔月になり、探鳥会もなくなったので、やめるとのことだった。本来、会費を野鳥の保護活動に生かすことも目的なので、その趣旨を教えてアピールする必要があるのではないか、と考えている。日頃から、会費によってこんなことができましたなど成果をアピールしていくことが重要だと思っている。

●埼玉（浅見）

会員限定、申し込み制の探鳥会で、参加者の顔ぶれが変わった。一方、ネット不得意な方もいて、悩んでいて、解決策が見つからない。

●財団普及室（箱田）

軽井沢の探鳥会で入会増えたとのことですが、県外の人でしょうか？

→県外の方が仲間を連れてきてくれて、それで入会いただけている。（吾妻 中澤）

他支部でも有名な探鳥地での探鳥会で県外の会員が増える現象が起きている。

佐賀県支部の有明海ラムサル登録に伴って県外の参加者、入会者が増えている。

茨城の潤沼もラムサルに登録され注目度が上がっているためアピールすることはよい戦略だと思う。

コロナをきっかけとした会員と非会員との差別化については、結果が出てきている支部がある。

愛知支部では、探鳥会を会員限定にしたことで、それまで入会しなかった人が探鳥会に参加したいがために入会し会員が増えている。（普及室 箱田）

会員が増えてきている愛知ではすべて会員制にしている。

一年間で 54 人会員が増えている。

宮城は会員と非会員の会費を大きくしたと認識している。（栃木県 手塚）

<議題 4 探鳥会開催地や開催日の平準化>

●吾妻（中澤）

群馬県では野鳥の会という組織は、群馬・吾妻の他に、浅間高原野鳥の会が嬭恋村にできた。浅間高原野鳥の会は日本野鳥の会の支部ではなく、嬭恋村役場内に事務局を置く自然保護団体。

吾妻では日曜日に探鳥会を開催するが、前週の火曜日に実施してきた下見を平日探鳥会として公開するようにした。ペンション経営者など日曜日に参加できない方の参加が増えている。

●千葉県（橋本）

探鳥地 25 か所は、40 年間でうまく分散してきていると思う。

平日探鳥会を月1回実施していて、参加者が多い。ただし、平日だと担当できる人が限定されていて、継続することが課題となっている。

●栃木県支部（手塚）

探鳥地は北に多くある。季節的には 8,9 月が少ない。（夏季は標高の高いところで実施している）

年間計画を作成の際、できるだけ重複しないように計画してから、リーダーが調整している。

●神奈川支部（鈴木）

平準化で特に工夫はないです。

平日探鳥会も増えてきている。

探鳥会リーダーを登録しているが、ほとんど機能していない方もいて、人間の平準化が必要と感じている。一部のの方に負担が掛かっている状況。

●埼玉（小林）

工夫は、計画段階で重複しないようにしている、くらい。月1回普及部会で、調整しており、概ねうまくいっている。

●群馬（浅川）

分会制をとっていて、各分会で対応している。

土日祭日のみで、探鳥地は 45 か所あるが、毎月実施の探鳥会も多数ある。

群馬は 3 つに分かれているが、他の支部の探鳥会を実施していない。

●奥多摩支部（蒲谷）

探鳥会日程変更は難しい。空いているところに新規設定して平準化をしている。いままでの探鳥会は日程変更せず実施したい、との希望が多い。

●普及室（箱田）

神奈川支部の人の平準化に関連して、探鳥会開催地の平準化という視点もあるように思う。人口の多いところで探鳥会が行われていない傾向がある。

神奈川だと川崎という人口密集地で探鳥会が行われていない。川崎在住の会員がいないからできないということだと思うが、戦略的に取り組めれば突破口が開ける可能性がある。財団普及室としても連携をとっていきたい。

→埼玉は逆で、人口が多いところでリーダーが多い。北部は、探鳥地としてよい場所が多いが高齢化しており、探鳥会が開けていない状況。（埼玉 浅見）

【議題 5 データベースについて】

●茨城県（角谷）

茨城でデータベースを作成始めており、いろいろ皆さんにお聞きしたいと思い議題に挙げた。

探鳥会毎の観察種を記録しており、1年間分を年度記録としてまとめている。

データの活用方法、データの粒度、入力方法についてご意見・アドバイスを頂きたい。

●埼玉（森本）

支部が出来て以来すべての記録を、データベース化している。現在 34 万件以上のデータがある。データ入力、支部報に掲載された時点で入力する。リーダーからエクセルフォームで提出してもらっている。

データベースに入力する形式とリーダーから提出してもらうエクセルフォームを合わせているので、データ入力の手間はほとんどかかっていない。

野鳥情報はワードファイルからテキストを拾い上げてデータベースに入力するフォームでプログラムを作成したので、効率的に入力可能となっている。

●茨城県（角谷）

埼玉のエクセルフォーマットを見せて頂くことは可能でしょうか？

●埼玉（森本）

可能です。データベースから分布図を作成することも可能です。

Field Note の紹介をオンライン野鳥フォーラムで紹介するので、ぜひご参加ください。

●栃木県支部（手塚）

埼玉は Access (ソフトウェア) を使っているが、栃木はファイルメーカーを使っている。

担当がデータベースに手入力していて、使い道は支部報(表)に乗せる程度。年間計画を作成するときも、使用している。ホームページ掲載用も直接出力できる。

探鳥会参加者や人数も一つのデータベースになっている。

会員からの投稿情報もファイルメーカーで管理している。今後目録作成する場合は、データとして使うことも考えている。

●茨城県（角谷）

データ手入力とのことですが、何人くらいで対応されているのか？

●栃木県支部（手塚）

1 人です。専用の方がいる。

●神奈川支部（鈴木）

データを集める際は支部報とは切り離して集めている。

データはエクセルに入力して提出してもらっており、すべて個人の方から頂いているデータになっている。エクセル入力シートは、市町村名、種、数、神奈川県をメッシュ切りしたときのメッシュ情報も記入している。このようにすることで後々地図に落とすことが便利となっている。

入力マニュアルとフォームはホームページ上に公開している。

鳥の行動についても合わせてデータベース化している。重複してデータを集めているので、鳥の数が増えたり減

ったりが分かるが、データが少なくなっている地域もあるので、困っている。

●千葉県（橋本）

データベースは色々なデータがある。
会員からのデータはテキストデータ。
探鳥会は数が入っていないが、会報に掲載した分をエクセルデータで作成している。
調査研究は、研究担当の方がまとめてデータ化している。
全部を統一できていないので、データをどう生かすかが課題。なんとか幹事だけでも共有できるようにしていきたい。

●奥多摩支部（蒲谷）

本部でeバードを立ち上げているが、eバードと支部のデータの関連について、どのように考えているか？

●財団常務理事（葉山）

eバードはグループアカウントがあり、支部でアカウントを取って頂いて登録すると、いつでもダウンロードできる。
データをどのように加工するかは、その人次第。
データをどのように使うかですが、専門家のように分析するには時間も労力もかかる。
近年オープンデータ化しており、最近実施した繁殖分布調査は希少種以外、公開している。
分析が得意な方にデータを活用してもらおうという考え方です。
データ所有権は調査を実施した人なので、もし自分で論文化する予定があるのであれば非公開にもできる。
データを論文化しないのであれば、公開してみんなにデータを使ってもらおうという考え方です。
自分のデータ以外にも活用することができます。
まだまだeバードは日本で活発ではないですが、繁殖分布以外も越冬期分布調査でもデータを活用しています。
位置データや観察時間、歩いた距離なども記録されるので、ぜひ活用下さい。

【閉会挨拶】

●茨城県会長の矢吹氏より閉会の挨拶があった。

●次回関東ブロック協議会担当支部となる栃木県支部支部長の内田氏より挨拶があった。

以上。

◆事務局からのお知らせなど

■共生推進企画室より

■応援してください！クラウドファンディング初挑戦（8/29～9/30）

この度、カンムリウミスズメ保護活動の資金を得るため、クラウドファンディングに初挑戦します。つきましては、ぜひこのクラウドファンディングについて、SNSやメルリングリスト等でシェア、拡散して、応援してください！

●クラウドファンディング開催概要

「天然記念物カンムリウミスズメと海を守る | 保護・研究活動にご支援を」

開催期間：8/29（月）～ 9/30（金）

目標金額：350万円

公開 URL：<https://readyfor.jp/projects/wbsj202208>

（※8/29以降に公開）

●開催の背景

絶滅が危惧される海鳥カンムリウミスズメの保護活動を進めるため、当室ではこの夏、「いのちを支える海を守る」と題したリーフレットを支援者の方へ配布し、最新の活動内容を紹介するとともに、活動へのご支援をお願いしてまいりました。連携団体および支部の会員の皆様にも多大なるご協力をいただきまして、この場をかりて御礼申し上げます。

今回は、さらに多くの方々へ活動を紹介し、ご支援をお願いするため、クラウドファンディングに挑戦します。クラウドファンディングとは、インターネットを通して自分たちの活動や想いを発信することで、応援したいと思った人から資金を募るしくみです。

この挑戦では、活動資金を募るだけでなく、広く世間に日本野鳥の会の自然保護活動を紹介します。当会を支援して下さる新たな仲間をつくりたいと考えています。

クラウドファンディングを成功させるためには、会員の皆様によるご寄付や情報のシェア、拡散が大きな力となります。皆様には度重なるお願いで恐縮ですが、どうか、今回の挑戦を応援していただきたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

【クラウドファンディングのお問い合わせ】

共生推進企画室までお願いいたします。

E-mail: kifu@wbsj.org

（共生推進企画室／塚田文）

■総務室より

■会員数

8月1日時点の会員数は33,500人で、先月と比べ35人減少しました。

7月の入会・退会者数（表1）をみますと、入会者数は退会者数より17人少なくなっています。

7月1日付の入会者数は167人で、前年同月の入会者数167人と同じです。

また、7月末日付の退会者数は184人で、前年同月の退会者数147人と比べ37人増加しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 7月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	10人	16人
総合会員（おおぞら会員）	24人	36人

本部型会員（青い鳥会員）	24 人	32 人
支部型会員（赤い鳥会員）	71 人	66 人
家族会員	38 人	34 人
合計	167 人	184 人
年度累計	807 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

※上記集計は速報値になります。

●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数（8月1日時点）

都道府県	会員数	対前回差
北海道	1,607 人	-1 人
青森県	228 人	-2 人
岩手県	345 人	-2 人
宮城県	526 人	4 人
秋田県	242 人	-1 人
山形県	224 人	-3 人
福島県	525 人	2 人
茨城県	828 人	1 人
栃木県	764 人	-3 人
群馬県	586 人	0 人
埼玉県	1,971 人	-7 人
千葉県	1,467 人	-2 人
東京都	4,631 人	8 人
神奈川県	3,134 人	-4 人
新潟県	365 人	0 人
富山県	196 人	2 人
石川県	270 人	0 人
福井県	216 人	0 人
山梨県	251 人	0 人
長野県	817 人	2 人
岐阜県	477 人	-2 人
静岡県	1,217 人	-6 人
愛知県	1,553 人	0 人
三重県	426 人	-1 人
滋賀県	297 人	0 人
京都府	796 人	-6 人
大阪府	1,895 人	-4 人
兵庫県	1,238 人	-4 人
奈良県	475 人	-4 人
和歌山県	215 人	0 人
鳥取県	221 人	-1 人
島根県	205 人	0 人
岡山県	551 人	3 人
広島県	573 人	-2 人
山口県	332 人	-3 人
徳島県	324 人	3 人
香川県	187 人	3 人
愛媛県	339 人	-2 人

高知県	109 人	0 人
福岡県	1,193 人	-3 人
佐賀県	199 人	2 人
長崎県	212 人	-4 人
熊本県	356 人	1 人
大分県	214 人	-2 人
宮崎県	235 人	-1 人
鹿児島県	332 人	3 人
沖縄県	87 人	0 人
海外	9 人	0 人
不明	40 人	1 人
全国	33,500 人	-35 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数（8月1日時点）

支部	会員数	対前回差
オホーツク支部	238 人	-4 人
根室支部	75 人	0 人
釧路支部	139 人	-1 人
十勝支部	170 人	1 人
旭川支部	77 人	1 人
滝川支部	40 人	0 人
道北支部	26 人	0 人
江別支部	22 人	1 人
札幌支部	295 人	0 人
小樽支部	58 人	0 人
苫小牧支部	160 人	2 人
室蘭支部	125 人	-3 人
道南檜山	66 人	0 人
青森県支部	119 人	0 人
弘前支部	112 人	-1 人
秋田県支部	231 人	-2 人
山形県支部	205 人	-1 人
宮古支部	72 人	0 人
もりおか	153 人	-2 人
北上支部	94 人	1 人
宮城県支部	498 人	3 人
ふくしま	137 人	0 人
郡山支部	144 人	-1 人
白河支部	23 人	0 人
会津支部	54 人	0 人
奥会津連合	5 人	-1 人
いわき支部	89 人	0 人
福島県相双支部	16 人	0 人
南相馬	16 人	0 人
茨城県	726 人	-3 人
栃木県支部	754 人	-1 人
群馬	504 人	-4 人
吾妻	45 人	2 人
埼玉	1,464 人	-7 人
千葉県	894 人	-4 人
東京	2,609 人	0 人
奥多摩支部	748 人	2 人
神奈川支部	2,081 人	-6 人

新潟県	273 人	-1 人
佐渡支部	35 人	0 人
富山	176 人	2 人
石川	245 人	0 人
福井県	214 人	1 人
長野支部	409 人	2 人
軽井沢支部	162 人	1 人
諏訪支部	224 人	0 人
木曾支部	20 人	0 人
伊那谷支部	66 人	0 人
甲府支部	181 人	-2 人
富士山麓支部	55 人	1 人
東富士	65 人	1 人
沼津支部	134 人	-3 人
南富士支部	220 人	0 人
南伊豆	43 人	0 人
静岡支部	317 人	-1 人
遠江	369 人	3 人
愛知県支部	1,167 人	5 人
岐阜	459 人	-1 人
三重	366 人	-1 人
奈良支部	409 人	-7 人
和歌山県支部	221 人	0 人
滋賀	293 人	-3 人
京都支部	737 人	-5 人
大阪支部	1,739 人	-5 人
ひょうご	953 人	-1 人
鳥取県支部	235 人	-1 人
島根県支部	197 人	0 人
岡山県支部	522 人	2 人
広島県支部	500 人	-2 人
山口県支部	305 人	-3 人
香川県支部	148 人	4 人
徳島県支部	347 人	4 人
高知支部	97 人	0 人
愛媛	312 人	-2 人
北九州支部	246 人	-1 人
福岡支部	526 人	-1 人
筑豊支部	220 人	0 人
筑後支部	152 人	0 人
佐賀県支部	246 人	3 人
長崎県支部	201 人	-4 人
熊本県支部	346 人	1 人
大分県支部	203 人	-2 人
宮崎県支部	222 人	-3 人
かごしま県支部	313 人	1 人
やんばる支部	50 人	0 人
西表支部	44 人	0 人
	28,268 人	-46 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（総務室／三浦岳志）

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。

暦上の秋とは名ばかりの暑さが続いております。しかし仕事を終え、事務所を出る際に日の短さを感じたり、ちょっとした植え込みの中からコオロギ類の声がしたりと少しずつ晩夏を感じるこの頃です。早いものでツバメたちも成鳥を見かける頻度が減り、目にするのは今年生まれの若いツバメが多くなりました。次号発行の頃には、彼らの多くは南へと初めての旅へと出ているのでしょうか。旅の無事を祈りつつ、観察を続けたいと思います。

次号もどうぞよろしく願いいたします。

日本野鳥の会

支部ネット通信

2022年8月号・通巻247号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2022年8月26日

◆担当

総務室 総務グループ

五十嵐真/林山雅子/松井華奈/原元奈津子/萩原洋平
〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org